

\*主イエスの時の約 200 年位前にユダヤを支配していたセレウコス朝シリヤ。その アンティオコス・エピファネスという王が、ユダヤ人たちに強制的にギリシャの 神々を拝ませたり、豚の「いけにえ」をささげさせたりした。これに対して、ユダヤ人たちは反抗し、多くのいのちが失われた。しかし BC165 年、ユダ・マカベアという人が中心となってシリヤ軍を破り、汚された神殿をきよめることができた。このことを記念して「宮きよめの祭」が行われるようになり、今に至るまで 続いている。\*この祭りの時、ユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつ まで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう 言うてください。」イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。わたしが父の御名によって行うわざが、わたしについて証言しています。(ヨハネ10:24) ユダヤ人たちはユダヤを救って くれるキリストを待ち望んでいたが、イエスがそのキリストであることを頭から否 定していた。安息日にわざをしたり、異邦人の家に入ってと一緒にご飯をしたりして律法を破る者、また、自分を神であるなどという者はキリストであるはずがないと信じていた。ことばを聞いただけでは信じられないかもしれないが、イエスのわざ、奇跡をみればわかるはずである、とイエスは言われる。ヨハネはイエスが行われた数々のキリストであることの証拠としての「わざ」(「しるし」と呼んでいる)を記している。これらを見てもなおあなた方は信じない。それは、ご自分の羊に属していないからだと言われる。\*逆に、イエスに属している羊について、「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。わたしと父とは一つです。」(10:28~30) ユダヤ人たちは、イエスの何かのわざが気に入らなくて石打にしようとするのではなく、「人間でありながら、自分を神とするからです。」という。「人間でありながら」という言葉に、彼らの理解が困難であることが現れている。イエスは元々天におられた神であり、その方が人の形をとって地上に来られたのである。イエスは、「父が、聖であることを示して世に遣わした者である、」と言われた。(10:36) イエスのわざは父のわざである。このことが分かった者は、信じるができたと思う。\*主イエスは十字架で罪のあがないのわざをなして後、よみがえり、天に昇られた。今も生きて私たちに「わざ」をなして下さっている。ことばだけで「見ずに」信じることができればよいが、少なくとも私たちになされるキリストを証言する